



紀平真理子のオランダ通信

第36回

Kom in de Kasに ナス生産者を訪問

プロフィール

1985年、愛知県名古屋市生まれ。南山大学外国語学部スペイン語学専攻卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてに実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。

オランダ全土で園芸施設開放

4月にKom in de Kasという「園芸施設オープンデー」が開催され、オランダ国内で約200の園芸施設が開放された。2日間で約20万5,000人が参加。このイベントは1977年にRijswijkやWestlandなどロッテルダム近郊の園芸で有名な地域の地方イベントとして始まったが、2002年には訪問者が20万人に達し、現在はオランダ全土の野菜、花き、苗木生産者が毎年4月の第1土日に施設を一般開放している。



施設内の様子。イベント中は摘果をしていなかった

筆者が訪問した南ホランド州 Wateringen だけでも14の園芸施設が開放されており、一般の参加者や子どもたちでにぎわっていた。このイベントはLTO Glaskracht Nederland（オランダ農業園芸組織連合会）によるもので、DPA（オランダ野菜・果物業協会）、フローラホーランド、Bayer CropScience、金融機関 Rabobank、保険会社 Interpolis などがスポンサーになっている。

オランダ人らしい商売っ気

今回はそのイベント中に訪問した施設のひとつである Wateringen のナス生産者 Kwekerij van Luijk を紹介する。この農場は1999年にナスの栽培を開始し、現在は年間1㎡当たりの収穫量は175果。2014年より

息子が後を継ぎ、基本的にはフルタイム3人とパートタイム2人、夏の繁忙期は季節労働者7人を合わせた計12人で2.58haの圃場を管理、選別、パッケージングまで行なっている。多くはドイツへの輸出とオランダ大手スーパーマーケット Jumbo へ卸しているそうだ。12月から6週間、苗木を定植する。2月下旬から摘果を開始し、10月下旬まで行なう。年間に1茎で約35果を摘果する。



施設の入口にナスBBQをプロモーションするバルーンがあった。施設内でもナスのさまざまな食べ方（ナスのスープやディップなど）を訪問者に提案していた

このイベントの趣旨「消費者に栽培方法を正しく伝える」だけにとどまらず、栽培している野菜を使ったレシピや食べ方の提案、品種の説明、購入可能店舗に関する案内など消費者が最も近づける日に消費につながるアピールを怠らない「商売っ気」にオランダ人らしさを感じた。



Kom in de KasとプリントされたTシャツを着ている近隣のナス生産者が訪問者に栽培方法の説明を行っていた